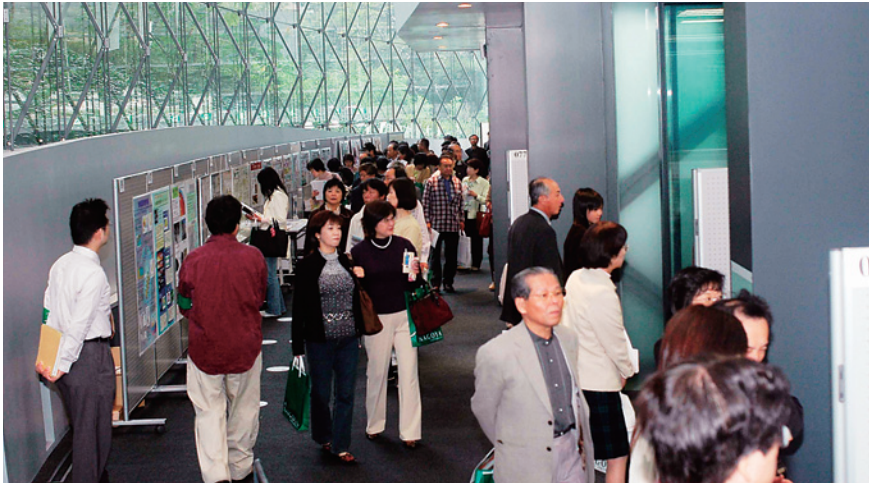


NUAL (ニューアル) は Nagoya University Alumni Association の略称です。



Contents

ホームカミングデー2005・第4回総会開催
NU Home Coming Day 2005
and NUAL Fourth General Meeting 1
同窓会ニュース 3
NUAL News

大学ニュース 14
Nagoya University News
事務局からのお知らせ 16
From the NUAL Office

(左上) 研究活動紹介 (右上) F1カーを見る参加者
(左下) 懇親会で合唱する名古屋大学混声合唱団 (中央) 演舞会でダンスを披露する舞踏研究会のペア
(右下) ホームカミングデー当日、多くの参加者で賑わった豊田講堂

ホームカミングデー2005・第4回総会開催

NU Home Coming Day 2005 and NUAL Fourth General Meeting

名古屋大学としては初となる、名古屋大学ホームカミングデー2005と全学同窓会第4回総会・講演会・懇親会が平成17年(2005年)10月23日(日)、豊田講堂を中心に東山キャンパス全域を会場として開催され、ときどき小雨も降るあいにくの天候ながら、同窓生や学生の家族を中心に約2,000人の参加で盛り上がりました。

The inaugural Nagoya University Home Coming Day 2005 and the Fourth General Meeting of Nagoya University Alumni Association were jointly held on October 23rd, 2005, at the Toyoda Auditorium and the whole over the Higashiyama Campus with about 2,000 participants including former students and current students' families.



ホームカミングデー開会式・全学同窓会総会



全学同窓会の活動報告をする伊藤代表幹事

名古屋大学ホームカミングデイ2005は名古屋大学本部主催、全学同窓会共催で行われ、卒業生・修了生、学生やその家族、現・旧職員等の名古屋大学関係者・近隣地域の方々をお招きし、名古屋大学の現状と活動についてお知らせするとともに交流を深めたいとの趣旨で、今年初めて開催されたものです。

午前は、大学による教育活動紹介、研究紹介と並行して、各部局・部局同窓会行事が各所で行われました。約800名の在学生の家族が参加した教育活動紹介では、教育担当の若尾祐司副総長のあいさつ、大学紹介DVD上映や学生の就職活動支援体制に関する二件の報告と参加者との質疑応答が行われました。出席した父母からは切実で厳しい意見が多数寄せられました。野依記念学術交流館では、21世紀COEプログラム拠点研究をはじめとする文系・理系の70研究グループがその研究成果をパネル展示し、約700名が観覧しました。野依記念物質科学研究館・附属図書館・博物館・広報プラザでも施設公開が行われました。各学部・研究科同窓会の企画としては、文学部・文学研究科が文学部同窓会と同窓会秋季サロンとして昼食会や折り紙実演、展示等を60名の参加で行い、法学部同窓会では会場を国際開発研究科に移して講演会・施設見学・懇親会を開き115名が参加しました。理学部・理学系研究科同窓会は学科別ミーティング・同窓会総会・懇親会と研究室公開を行い169名参加と盛況でした。その他の各学部・研究科でも研究室公開や講演会、懇談会、ポスター展示等で卒業生や在学生父母に教育・研究の現状報告をしました。

午後には、豊田講堂を会場に約600名が参加して、ホームカミングデイ開会式・第4回全学同窓会総会・講演会を開催しました。開会式・同窓会総会は、法学部卒業生

の吉田一貴 NHK 富山放送局アナウンサーの司会で行われ、平野真一総長から、「自分が卒業した大学、在学する大学、関係した大学に、愛情や誇りを持ってもらえることなくして、本学の発展はありません。大学を顧みてもらえるように、構成員が一致団結して、同時に地域の方々との強い連携を図り、本学が世界一流の大学となるように、さらに発展させていきたい。」と、あいさつがありました。丹羽宇一郎全学同窓会副会長（伊藤忠商事株式会社取締役会長、名古屋大学経営協議会委員）によるあいさつでは、最近の名古屋大学同窓生の各界での活躍と今後への期待、ホームカミングデイ開催のための平野総長らの尽力への謝意と今後の継続開催への希望が表明されました。引き続き、伊藤義人代表幹事が平成16-17年度の全学同窓会活動報告を行いました。総会に先立ち全学同窓会評議員会が開催されましたが、その席でバン格拉デシュ支部の設立が承認されました。総会では、丹羽副会長から、支部長の Md. Sayeedul Islam Khan 氏（GRAM BANGLA Sangstha 代表、昭和55年名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了）に、支部認定証と支部旗が授与されました。

続いて行われた講演会では、株式会社デンソー副会長でトヨタ自動車株式会社相談役の齋藤明彦氏（昭和43年名古屋大学大学院工学研究科博士課程修了）に「F1の楽しみ方」と題して、トヨタF1チームのチームリーダーとして活躍されたご自身の経験から、F1レースの仕組みやF1フォーミュラカーに導入されている技術について裏話も含めてお話いただきました。また、この講演にちなんで実物のF1カーが豊田講堂のピロティに展示され、終日見学者の人垣ができていました。

その後、昨年度全国一位となった舞踏研究会による演舞を経て、会場をシンポジオンに移し懇親会が行われ、韓国支部長の尹炳虎韓国江原大学校教授とバン格拉デシュ支部長のKhan氏による流暢な日本語のあいさつや、学生サークル「民族舞踊団音舞」と混声合唱団による演舞やコーラスには大きな拍手が沸いていました。最後に参加者全員で学生歌「若き我等」を合唱して、ホームカミングデイ2005は幕を閉じました。

アンケートでは、参加者から概ね好評を得られましたが、広報の取り組み不足を指摘する声が寄せられたほか、午前キャンパス各所で各部局行事を行い午後開会式・同窓会総会を行ったため、午前中行き先に困った参加者や午前で帰られた方も多く見られました。この催しは引き続き毎年行われる予定で、今年は豊田講堂の改修も予定されているため9月30日（土）に実施する計画が進んでいます。アンケートの結果は今後の運営の参考にさせていただきます。

相次ぐ海外支部の設立 NUAL Overseas Branches Founded in Succession

2005年5月の韓国支部の設立に続いて、バングラデシュ支部（同年10月）、上海支部（11月）、タイ国支部（12月）と相次いで海外支部が設立されました。バングラデシュ支部は、名古屋大学ホームカミングデイにあわせて豊田講堂で開催された全学同窓会第4回総会において設立式が行われました。上海支部とタイ国支部の設立総会は、それぞれ上海とバンコクにおいて、平野総長、伊藤代表幹事の臨席のもとで行われました。

NUAL Bangladesh Branch was declared open in the Fourth General Meeting of NUAL on 23th October 2005. General meeting for founding NUAL Shanghai Branch was held on November 11th at Garden Hotel, Shanghai. Founding ceremony of NUAL Thailand Branch was held on December 14th at Rama Gardens, Bangkok.

バングラデシュ支部設立 Bangladesh Branch Founded

■ ■ バングラデシュ支部の誕生 ■ ■



バングラデシュからの50人を超える留学生が、名古屋大学のさまざまな学部で博士や修士の学位を得ています。彼らの多くは文部科学省から全面的な学費支援を与えられました。より高い水準の教育を受けた後、大多数の学生はバングラデシュに戻り、多様な能力を生かして国家を作りあげる活動に貢献しています。文部科学省の手厚い学費支援がなければ、このように高い水準の進んだ教育を受けることはできませんでした。日本政府に対し、心からの感謝を申し上げます。

2005年10月23日に名古屋大学全学同窓会（NUAL）が名古屋大学ホームカミングデイを開催したのは、素晴らしい機会でした。まさにこの日に NUAL バングラデシュ支部の設立が宣言されたのです。それは華やかな式典で、現在は多くの重要な地位に就くかつての留学生が出席しました。最も忘れられないのは、万雷の拍手の中で同窓会から証書と NUAL の旗が私（バングラデシュ代表）に手渡された時のことです。

このようにして NUAL バングラデシュ支部は誕生し、船出を果たしました。我々は NUAL バングラデシュ支部が、NUAL 韓国支部に次ぎ日本国外に設立された2番目の支部であると認識しています。これはバングラデシュ同窓会にとって非常に名誉あることです。

名古屋大学は我々の母校一学問の母です。この折に際し、母親の元に戻ってきたような感覚を感じます。それは私に立派な人間になるよう知識と学問を与えてくれました。私は尊敬する先生方を忘れずにいます。彼らの中には亡くなった方もいますし、ほとんどの方は退官されています。しかし、彼らの思い出は私の心の中にしっかりと残っています。

私は長い年月が経った後、1976年から1980年の間に名古屋大学で学んだ古い友人たちの何人かと再会することができました。私は既に64歳になり、友人たちも年をとりました。どこに行ってもどこで暮らしていても、私たちは常に我々の母校、名古屋大学を愛し尊敬しているでしょう。NUAL バングラデシュ支部は、日本とバングラデシュ、特に名古屋大学とバングラデシュ大学間における調査やその他の共同研究を通し、国際理解と友好が進展することを約束します。NUAL バングラデシュ支部は、与えられた名誉の維持に努めています。

（イスラム・カーン：バングラデシュ支部長）



丹羽全学同窓会副会長から支部旗を授与される Dr. S. I. Khan 支部長

上海支部設立 Shanghai Branch Founded

名古屋大学全学同窓会上海支部は、2005年11月11日に設立しました。その日の午前には、名古屋大学上海事務所がオープンし（本誌15ページ参照）、午後には上海新錦江大酒店において、名古屋大学国際学術フォーラムが開催されました。フォーラムでは、名古屋大学の先端研究の紹介が行われ、中国の大学生、研究者、本学の同窓生など約350人が参加しました。夕方には会場を上海花園飯店に移し、全学同窓会上海支部の設立総会が行われ、その後、フォーラムの参加者も含めて懇親会が華やかに行われました。



設立総会後の記念撮影

上海支部の設立と活動状況



上海名古屋大学同窓会（上海支部）が全学同窓会3番目の海外支部として、11月11日（金）午後6時により、上海花園飯店リリーの間において、設立総会を開催しました。総会は、平野総長、山下理事、伊藤代表幹事や、上海在住の同窓生など約30名出席しました。平野総長からのあいさつの後、伊藤代表幹事や唐駿会長もあいさつしました。

上海支部が設立した後、初回の活動として、2005年12月23日（金）午後3時から、名古屋大学上海事務所において懇談会を行い、上海在住の同窓生が10名参加しました。皆は2006年度の同窓会活動企画や同窓会の運営について、相談しました。懇談会が終わってから、事務所の近くにある料理店に移動し、午後6時30分により、忘年会を行いました。忘年会は約25名の同窓生の出席があり、そのうち、杭州や南通など上海以外の都市からの同窓生もいました。上海支部の幹事長の発声で乾杯し、終始盛り上がる雰囲気の中で、歓談が行われました。

上海支部は名古屋大学上海事務所を活動の拠点として、中国における同窓生のネットワークを広げていくことにしており、卒業生の精神的な支えになることと期待されています。（楊立:上海支部幹事長、上海交通大学教授）

上海支部役員

役 職	氏 名	卒業年、卒業学部／研究科
上海同窓会会長	唐 駿	1988年 工学研究科
幹 事 長	楊 立	1997年 工学研究科
幹 事	洪 庚 明	1999年 法学研究科
	西村今日子	1986年 文 学 部
	太田裕之	1983年 法 学 部
	王 德	1994年 文学研究科
	王 莉	1997年 工学研究科

タイ国支部設立 Thailand Branch Founded



全学同窓会タイ国支部設立総会

全学同窓会タイ国支部設立総会は、12月14日（水）、バンコク市内のラマ・ガーデンホテルにおいて行われ、平野総長及び伊藤全学同窓会代表幹事のあいさつ、支部役員を選任の後、平野総長から、Neunpanich Sinchaisri 同支部長に、認定証と支部旗が手渡されました。総会には、寛哲男全学同窓会関西支部長や竹林敏之在タイ日本国大使館一等書記官など約40名の同窓生が集い、盛大に支部設立を祝いました。また、総会終了後の懇親会は、タイにおける同窓会活動に尽力してきた齋藤哲夫名誉教授のあいさつで始まり、終始和やかな雰囲気の中、本学での思い出などを語る同窓生の姿がそこかしこで見られました。

(名大トピックス No. 152より)

■ ■ ■ NUAL タイ国支部より ■ ■ ■



名古屋大学全学同窓会タイ支部が、2005年12月14日にたいへん印象深いセレモニーのもとで設立されことは、私たちにとって大きな喜びです。実際には、タイ国内での名古屋大学同窓会の活動は、1995年から非公式になされてきました。それは、バンコクのカセサート大学で昆虫学の客員教授を12年間もの長い間勤めてこられた齋藤哲夫博士によって組織されたものです。

私たちが今までやってきた主な活動は、学界や官界で活躍する名古屋大学出身者や他の日本の大学出身者の交流でした。タイ国支部のメンバーには、名古屋大学出身のタイ人だけでなく、タイの日系企業で働く日本人も含まれています。定期大会は、年に2回開かれます。活動の一つとして、名古屋大学での勉学を希望する若い学生に情報提供やガイダンスを行い、もし可能なら、名古屋大学とタイの大学との国際交流協定に基づいた推薦状を発行します。

タイ国支部は、全学同窓会だけでなくバングラデシュや上海など他の支部との、出来る限りの協同と緊密な関係を願っています。ぜひタイにお越し下さい。

(Dr. Neunpanich Sinchaisri: タイ国支部長)

タイ国支部役員

役 職	氏 名	卒業年、卒業学部／研究科
会 長	Neunpanich Sinchaisri	1978年 農学研究科
副 会 長	Narong Chungsamarnyart	1981年 農学研究科
	Thaveewat Tassanawat	1987年 農学研究科
秘 書	Asanee Kwatrakul	1990年 工学研究科
会 計	Pramoto Sirote	1988年 農学研究科

名古屋大学の留学生

現在名古屋大学で学んでいる留学生は1,150名（2005年5月）で、日本の大学の中ではトップクラスの人数です。世界70の国と地域からの留学生が学んでおり、アジア諸国からの留学生が全体の8割を占めています。留学生の多くは大学院生です。修了後は、母国に帰る人も日本に残る人も、またさらに他の国や地域に向かう人もあり、世界中の様々な分野で活躍しています。

支部・部局便り News from the Alumni Associations of Different Schools and Regions

部局や地域ごとの同窓会から寄せていただいた便りを掲載します。伝統ある同窓会も、新たに設立される同窓会もありますが、それぞれが全学同窓会とも連携しながら活動しています。

Here you can find announcements and news from alumni associations of schools and/or regions. These associations and NUAL are cooperating with each other to everyone's benefit.

関東支部



関東支部幹事会は、毎月、学生会館内にある名大東京連絡所において開催しており、代表幹事、副総長、総長補佐、産学連携推進本部員等にも随時出席いただいています。昨年7月には、名大における全学同窓会関東支部の役割・位置付けを明確にして活動するためのワーキンググループを結成しました。関東支部は、名大、全学同窓会、協力会、中部 TLO と一体となった東京の拠点と位置付け、これらの組織とともに、名大の教育・研究・社会貢献への支援機構の役割を担っていると認識しています。関東は大学間競争の厳しさを体感できる地域であり、情報の垣塙でもあることから、法人化

後の名大の発展に如何に貢献できるかを探りながら、ホームカミングデイ、海外支部設立、産学官連携活動にチャレンジしています。1月24日には、東京フォーラム2006と同時に、第三回関東支部総会も開催しました（写真）。こういった活動に、関東在住の同窓生のご参加をお待ちしています。
(事務局長 片岡大造)

名古屋大学遠州会

名古屋大学遠州会は静岡県西部の名大全学同窓会として平成8年に発足しました。

今年は発足以来10周年の節目の年になります。この間平成15年には全学同窓会の支部として認定されました。

現在会員は約500名で、隔年に総会、毎年1回講演会または音楽会と懇親会を開催し、会報も出しています。昨年は5月14日に第10回の同窓会を会員70人の出席のもとに浜松の静岡新聞ホールにて開催致しました。

全学同窓会から太田副会長と伊藤代表幹事にも出席頂きました。太田副会長には「経営についての一私見」と題しての講演を、伊藤代表幹事からは全学同窓会の最近の活動についてのスピーチを頂きました。懇親会では出身学部や世代を超えて活発な交歓があり大いに盛り上がりました。

今年度は6月3日（土）に第6回の総会と11回目の懇親会を開催いたします。

全学同窓会に繋がる遠州地域の身近な交流の場です。遠州地区に在住または在勤の名大卒業生の入会、参加をお待ちしております。
(事務局長 内山宏之)

■問合せ先

TEL/FAX 053-425-0991

E-mail hi-uchi@po3.across.or.jp 事務局 内山

農学部同窓会(セコイア会) Agriculture (Sequoia-kai)

農学部第2回卒業生(昭和31年3月卒業)のみなさんが、平成18年3月に卒業50周年を迎えられます。これを記念して平成18年6月3日(土)に、農学部談話会にもご協力いただいで、第2回卒業50周年記念祝賀会を開催するため準備を進めています。懐かしい先生方にもご参加頂けるかと思っておりますので、記念祝賀会へのご招待状が届きましたら、万障お繰り合わせの上、ご出席ください。第1回卒業50周年記念祝賀会の様子につきましては、「名古屋大学全学同窓会 Newsletter No. 5 平成17年(2005)年10月発行」または農学部同窓会ホームページ(www.agr.nagoya-u.ac.jp/~dosokai/)をご覧ください。来年は第3回卒業生をお招きする予定です。

また同日、農学部同窓会総会、講演会、および懇親会を開催いたします。今年の講演会では、みなさまの関心が高いと思われるBSEに関する講演を予定しています。どなたでもご参加頂けます。講演会のみ、懇親会のみでもかまいませんので、お誘い合わせの上、ご参加下さい。

■セコイア会

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>



教育学部・教育発達科学研究科同窓会

教育学部・教育発達科学研究科同窓会の活動内容の主なものは、毎年6月の名大祭の期間中に行う総会と「通信」の発行（年1回）です。今年度は、10月のホームカミングデイにも、ささやかではありますが展示コーナーを設けました。写真はその時の様子です。同窓生のご家族や近い将来受験を考えている親子がたいへん関心をもって学部・研究科の教育内容等を見ていかれました。

■連絡先 森田美弥子（教育発達科学研究科）
d42953a@cc.nagoya-u.ac.jp



ホームカミングデイの展示コーナー

経済学部同窓会（キタン会）

本部事務所を昨年末に経済学部2階218号室に移転しました。屋上階（5階）にはキタン記念品の展示をしていますし、キタン庭園と渡辺龍聖先生の銅像が眼下に見えます。是非お立ち寄りください。

移転により、先生方や学生さんとの交流機会が増えるため、経済学部との連携強化や就職支援等にこれまで以上にお役に立つことが出来ると思います。

今年前半の行事として以下のように計画しています。

①3月14日（火）PM 6時から、産業貿易会館本館（丸の内3）5階にて名古屋ビジネスセミナーを開催します（名大 ERC・キタン会共催）。

演題「企業の変革・競争力強化」

講師は(株)デンソー会長の岡部 弘氏です。

名古屋大学大学院経済研究科附属附属国際経済動態研究センターまでお申込みください。



創立85周年記念大会 同期会に感謝状を贈呈

TEL 052-789-2361 FAX 052-789-4942

E-mail erc@soec.nagoya-u.ac.jp

②3月27日（月）PM4時から、卒業生による恩師謝恩会とキタン会入会歓迎パーティーをメルパルク NAGOYA（千種西）にて開催いたします。

文学部・文学研究科同窓会

私たちの同窓会は、4年前に新しく組織を立ち上げ、緩やかな歩みですが、活動を続けてきました。

毎年3月初旬には、文学研究科シンポジウムの開催に合わせて、総会と懇親会を開き、昨年も3月4日に第4回の会合をもちました。また、同窓会のニューズレターも第3号を発行することができました。

また、昨年には名古屋大学ホームカミングデイに協賛して、初めての「秋季サロン」を開きました。今年の秋にも、継続して「秋季サロン」を開き、さまざまな文化活動をされている卒業生を招き、その経験や知恵を語り、伝えていただくことを計画しています。

これからも同窓会として、試行錯誤しながら事業を実施していくことを考えています。卒業生・修了生に皆さんには、ぜひご理解とご協力をお願いします。毎年1月末には、ニューズレター『あおぎり』と、文学研究科シンポジウムのご案内を差し上げます。ぜひとも文学部のこのキャンパスでお会いしたいと思います。

なお同窓会の運営のために、ぜひとも会費納入をお願いします。会費は年1,000円です。また維持会費（一口5,000円）の納入も合わせてお願いいたします。

■郵便振り込み口座；加入者名

「名古屋大学文学部・文学研究科同窓会」

口座番号 00820-7-14993



秋季サロン：丹羽克子氏の折り紙教室

同窓会支援事業 NUAL Support Project

全学同窓会では、全学同窓会の活動理念に沿った名古屋大学の活動（学生活動、就職支援事業、本部・部局による行事・寄附講義等）への支援を目的として、平成16（2004）年度より、公募型の大学支援事業を開始しました。この事業は年2回募集を行い、選考にあたっては選考委員会を組織し、厳正に行っております。平成17年度後期採択事業3件について、担当者より報告いただきました。

NUAL commenced an open invitation type support project from 2004 for Nagoya University's activities (including student activities, employment support service, events and lectures) in harmony with the activity principle of the association. This project extends invitations twice a year and the Selection Committee is organized to implement a strict selection of activities. The following are summaries concerning the three activities selected in the second period of 2005.

学生が学生を支援するサポーター制度づくり —ピア・サポートおよび就活サポートの統合的な運営に向けて— Constructing the effective peer support system at Nagoya University

申請代表者：杉村和美（学生相談総合センター）

学生相談総合センターでは、低学年次生の大学への初期適応を支えるために先輩学生が後輩の相談にのる「ピア・サポート制度」、高学年次生のキャリア形成を支援するために就職活動を終えた学生が後輩の相談にのる「就活サポート制度」を行ってきました。2つのサポート制度は、相談者数も順調に伸び、学生による主体的な組織作りが進んできました。そこで次のステップとして、それぞれの活動をさらに整備し、入学から卒業までの統合的なサポートシステム作りを推進するために、今回の同窓会支援事業への申請を行いました。

事業の進捗状況は、以下の通りです。

1. ピア・サポート・ルームへのパソコン導入

これによって情報提供型の相談に応じやすくなりました。また、毎回の相談活動後のミーティングの議事録作成や、昨年12月に実施した新規サポーター募集説明会での資料や映像を使ったプレゼンテーションなどにパソコンを活用しました。

2. ピア・アドバイザーの活用

サポーターの相談活動を支援し、ミーティングのとりまとめなどをするピア・アドバイザーとして、心理学専攻の大学院生を雇い上げました。これによって組織の構造化と運営の質が向上しつつあります。

3. 報告書の作成

ピア・サポートと就活サポートの統合的な運営の第一歩として、別々に作成していた報告書を1冊にまとめ、2月末日完成を目指して現在印刷中です。

4. 広島大学ピア・サポート・ルームの見学

我が国で唯一しくみが整備されている広島大学ピア・サポートルームを、サポーター自身が見学することになっています。現在2月下旬の見学に向けて事前の勉強会の準備を進めています。



ピア・サポート・ルームの様子



相談に乗るピア・サポーター

名古屋大学学内保育所の屋外遊具設置

Installation of a playground equipment in Nagoya University Nursery School

申請代表者：森田美弥子
(名古屋大学学内保育所設置準備作業委員会・委員長、教育発達科学研究科)

平成18年4月に名古屋大学こすもす保育園が開園します！この保育園は、本学の男女共同参画推進事業として学内に設置されるものです。東山キャンパスの緑豊かな自然の中(山の上テニスコート前)にもうすぐ誕生します。その園庭に合う小さくて温かいぬくもりのログ・ハウスを同窓会からの贈り物としていただけることになりました。ログ・ハウスの入り口には「全学同窓会・NUAL」のプレートをつけ、多くの同窓生たちに見守られながら子どもたちが生まれ、その保護者である名古屋大学構成員も安心して教育研究や管理運営の仕事に携われることを意識できるようにしたいと考えています。国立大学法人が設置する学内保育施設は全国的にもまだ少ないため、先駆的存在として注目されています。保育園が目に見える形で同窓生から支援されることは、利用者のみならず大学全体にとって大きな励みです。子どもたちは入れ替わりながら入園し、卒園し、成長し大人になります。保護者たちも同様にいずれは大学を離れますが、継続して同窓会員です。保育園の遊具が、多くの同窓生やその子どもたちを繋ぐ役割も担うことになるでしょう。



名古屋大学こすもす保育園 完成イメージ図

学生のための就職情報等に関する最新図書、視聴覚資料の整備

Supply of the Books about Job Information for Students

申請代表者：伊藤義人 (附属図書館長)

本学は、開学以来これまで、国内外の様々な分野で活躍される数多くの職業人・社会人を輩出してきました。また、優れた資質と磨かれた知識、豊かな見識と人格を持つ本学卒業生への社会からの期待は、ますます大きくなっています。一方現在、学生が大学を卒業する際、職業を選択し、就職活動をして、その後実社会に入っていくためには、膨大な情報収集が必要となっています。本事業は、こうした状況を踏まえ、本学の学生に対する就職支援の一環として、各種の就職試験・資格試験に関する資料、職業案内、面接・ビジネスマナーあるいはプレゼンテーションの技術など、これまで十分でなかった職を得るために必要な幅広い資料を図書館として収集・整備し、学生に提供しようとするものです。附属図書館では、今回の全学同窓会からのご支援により、関連図書約130点・ビデオ5点を購入するとともに、中央図書館3階フロアに「就職コーナー」を新たに設置しました。学生の皆さんに、大いに利用していただきたいと考えています。なお、就職支援関連図書の整備は今回で終わってしまうものではなく、今後さらに学内の理解を得ながら、継続的に資料を拡充するとともに、常に最新の情報を学生に提供していく必要があると考えています。



就職コーナーの様子

活躍する会員たち NUAL People in Action

「活躍する会員たち」では、同窓会会員の各界におけるご活躍ぶりを紹介しています。第3回目は、いまや日本の経済界の重鎮で本同窓会の副会長としてもご尽力いただいている丹羽宇一郎さんと、日本の宇宙開発に関わってこられた樋口清司さんにご寄稿いただきました。

This column “NUAL People in Action” features our alumni playing active role in various fields. In this third issue, we have articles contributed by Mr. Niwa Uichiro, one of the leading figures in present Japanese financial circles and at the same time the vice president of our association, and by Mr. Higuchi Kiyoshi, who has been devoting his talent to the aerospace exploration of Japan.



丹羽宇一郎さん 全学同窓会副会長 関東支部長

1962年法学部卒業後、伊藤忠商事株式会社入社、1992年取締役、1994年常務取締役、1996年専務取締役、1997年副社長、1998年社長を経て2004年会長に就任、現在に至る。社業のかたわら政府税制調査会委員、総務省政策評価・独立行政法人評価委員会委員長、日本経済団体連合会税制委員会共同委員長、経済同友会行政改革委員会委員長、国連 WFP 協会（認定 NPO 法人）理事会会長、日本郵政株式会社・社外取締役、他多数歴任。

■中国東北大学・赫学長訪問

現在中国東北大学の学長をされている赫先生訪問は、昨年5月末中国遼寧省瀋陽市での世界学長会議で学長にお会いになった山本副総長からの紹介によるもので、私が昨年10月末に東北三省への出張する機会があり、瀋陽の東北大学学長室でお会いしました。

赫学長は、1981年に名古屋大学工学部・工学研究科に入学され、83年に修士修了、86年に博士課程を修了されました。昨年8月には研究・教育面および大学運営の業績及び功労が認められ、名古屋大学からフェロー称号を授与されています。

スケジュールの都合上、赫学長との面談は30分程度でしたが、名大時代のお話や産学連携の重要性、また、東北大学の学訓などについてお話をしました。感銘を受けたのは学長応接室に掛けた東北大学の学訓ですが、「自強不息」および「知行合一」の2つであり、この書は赫学長が自ら書いたものでした。自強不息の出典は「易経」であり、学問に対する心理を求める態度、絶えず真実、学問を求めることを意味しています。知行合一は私も好きな言葉ですが、中国の明時代に王陽明が興した陽明学の命題のひとつであり、論語の為政第

二にある「先ず其の言を行ひ、而して後にこれに従う」が元になっています。知って行わないのは、未だ知らないことと同じであることを主張し、実践重視の教えを主張した王陽明の言葉で、人間形成に欠くことの出来ないものです。

赫学長は、名古屋大学で学んだ教育をもとに、中国の主要大学である東北大学のトップとして、研究教育の発展ならびに大学運営に日々取り組まれており、教育にかける真摯な思いがこの学訓に表れていました。



左、丹羽会長、右、赫学長



左から赫学長、丹羽会長、桑山伊藤忠中国総代表（1971年経済学部卒業）

■全学同窓会に対する期待

経済人としてみますと、名古屋大学の同窓生には現在の日本を担っている財界人が多く、昨年弊社もイメージマスケットであるモリコロを通じて貢献させて頂いた、昨年の愛・地球博があれだけ期待以上の成果を上げたのも、あるいは必然であったと言えるでしょう。

現在の日本は、景気の回復局面とはいえども東京一極集中に近い状態あり、地方はまだまだ不況から脱しきれないでいます。そうした中で、中部／東海の地域経済は目を見張るものがあり、極めて好調です。

名古屋大学・全学同窓会に対しては、その元気の良さを日本全土に裨益しつつあるという認識に立ち、様々な機会の創出に努めて頂きたいと思います。

■若き後輩への言葉

考えてみますと、私も名古屋大学を卒業して既に四十数年が経過しました。ちょうど豊田講堂が完成して2、3年目に卒業式があったのですが、ここで学んだ幾多のことが未だに私の現在の礎になっているのではないかと思います。

私の会社にも毎年、全国からたくさんの応募があり、ほぼ100人に1人の割で入社されます。その中で我々が見るのは、必ずしも試験の結果ではありません。それ以上に大事なことは人間として立派か、常識のある判断ができるか、自分の価値観や良識を持っているか、というのが決め手になります。

大学での4年間、誰もが学業・スポーツ・社会交流など、色々な経験をするわけですが、共通して言えることは、まず最初に知識とか技術以上に人間性、高い品性、高

い教養や、良識と常識というものをいかに育てるかということに努力をして頂きたいと思います。

私は毎年入社してくる新入社員に対し、1日に30分読書をしなさい、と言っています。

今日は恐らく出来るでしょう。明日になると、昨日は酒を飲みすぎた、今日は眠い、友だちとの約束があるなどの事情が出てきます。2日目も、出来るかも知れない。しかし、毎日出来るでしょうか？ できそうでいて、極めて難しいのが努力を継続することです。皆さんは宝石である、とは言いませんが、輝きを持った石になる可能性のある方は必ず出るでしょう。しかし原石を磨いて輝きをもたらすのは、決してあきらめない日々の努力です。1ヶ月、1年、努力をしたときに、そこでなかなか結果が出ないということであきらめれば、永遠に輝きを失うでしょう。そこで踏みとどまって努力をするかしないか、これが分かれ目です。皆さんは同じような能力を持っておられます。学校の成績はほとんど関係ありません。それだけの努力をしたかどうかです。能力は誰にでもあり、ある日DNAのランプが点くのです。能力がジャンプアップすることがあるのです。

しかしそれはいつ点くか分からない。10年後かもしれない、15年後かもしれない。もしかすると明日かも知れない。しかし、努力をやめれば永遠に点かないのです。そこに皆さんの人生の大きな分かれ目があるということです。

従って、継続した努力、1日も休まない努力を続けられるかどうか、これが皆さんの人生の全てを決めるでしょう。是非今日からスタートしてください。



樋口 清司さん

1946年 三重県四日市市生まれ。

1969年 3月理学部数学科卒業。

1977年 6月マサチューセッツ工科大学大学院 (MIT) 航空宇宙学科修了。

1969年 4月科学技術庁入庁 (宇宙開発推進本部配属)。

同年10月「宇宙開発事業団」発足とともに異動、小型ロケットの開発・H-I ロケットの設計に携わる。1977年 9月に企画部門に移り将来計画や研究計画を、その後1984年 4月より国際宇宙ステーション計画を担当。

1992年 1月以降、企画部の課長、部長等を経て2003年 6月に宇宙開発事業団理事となる。

同年10月、宇宙開発事業団、宇宙航空技術研究所及び宇宙科学研究所が統合し「宇宙航空研究開発機構: JAXA (Japan Aerospace Exploration Agency)」が発足。現在、同機構の理事として、経営企画、国際、産学官連携部を担当。

宇宙開発に迷い込んで

■宇宙とのかかわり

1969年4月これからどんなことになるのか、よくわからないまま上京した。科学技術庁宇宙開発推進本部への就職は全くの偶然から始まった。小学生のころから理科好きで糸川教授のロケット実験の小さな新聞記事を切り抜いたり、天気予報に興味を持って雲の観察をしたりしてなんとなく空や宇宙に興味を持っていた。しかし高校では理科より数学の美しさに惹かれた。名古屋大学でも迷わず理学部数学科を選んだ。成績は物理のほうがよく数学は赤点もあったが数学の研究者になるつもりで数学科を選んだ。数学科でよく遊んだ仲間の3人が公務員試験を受けるというのでなんとなく私も受けた。3次の試験に運よく受かっていくつかの省庁や研究所から採用のお誘いが来た。その中に「宇宙」という字が見つかり少年時代からの思いと好奇心から面接試験に出かけたのがきっかけだった。

■数学と宇宙開発

さて、数学科学部卒が宇宙開発の世界で一体何ができるというのか。正直大変戸惑いました。幸か不幸か、これから日本の宇宙開発を本格的にやるのだという意気込みはあっても皆にわか宇宙担当で、わずかな経験と欧米の文献などを参考に見よう見真似で研究開発を始めたばかりのときでした。主任や総括などの格付けはあるものの目新しいことになるとみんな横一線で勉強をする状況でした。今では当たり前前のシステムエンジニアリングとか信頼性工学など初めて耳にする言葉ばかりでした。杉田玄白の解体新書を連想しました。このような状況下で私はいろいろなことをやらされました。数学をやってきたのだから何とかかならう

というのが先輩たちの言い分です。もちろん大学で学んだことを直接使えることはひとつもありませんでした。逆に開き直ってこれから必要なことを勉強していこうと覚悟しました。ある分野の専門家としてのプライドや自信がなかったことが幸いでした。後年宇宙開発事業団となり、それぞれの分野で専門家が育ち組織体制が整った後も技術屋でも科学者でも役人でもない私の立場は変わらず、その時々の新規企画や前例のない仕事が回ってきて今日に至りました。

■日本の実力

1969年といえばアメリカはアポロ計画を成功させた年です。その次の年に日本は東大宇宙航空研究所 (後に文部省宇宙科学研究所を経て JAXA) が小さな人工衛星を打ち上げました。日米の宇宙開発を比較して自嘲気味に「月とすっぽん」とよく言ったものです。それから37年、国全体の科学技術や経済力の発展を背景に日本の宇宙科学・技術は世界の一流国とどうにか肩を並べられるレベルになりました。よくがんばっていると思います。国家予算はアメリカのおよそ10分の一、欧州と比べても3分の一です。職員数はさらに開きがあります。このリソースの中で X 線天文学や太陽地球物理学分野では輝かしい実績と国際貢献を成し遂げ、地球環境観測や宇宙ステーション計画などでは国際的に信頼される重要なパートナーとしての地位を確立しました。

■名古屋大学と宇宙開発

日本の宇宙開発特に宇宙科学を語る時、東大や宇宙科学研究所の活動がよく紹介されてきました。その際、名大理学部を抜きに話することはできません。理学部は

自身で顕著な研究成果を生み出すとともに、この宇宙科学研究所に多くの優秀な人材を送ってきました。これまで同研究所で活躍している何人かの研究者から「実は名古屋の理学部から来ています。樋口さんも名古屋でしょ」といわれたことが何度もありました。このことは知人ぞ知る事実です。また早川幸男先生が日本の宇宙科学の先駆者であり第一人者であることに異論を挟む方はいないでしょう。工学の分野でも名大は多くの卒業生を航空宇宙分野に送り込んでいます。JAXA のみならず、航空宇宙企業特に東海地方の企業で多くの方が中核となって活躍しています。

■これからの展開

人類の宇宙活動はいま新しい時代を迎えようとしています。

ひとつはフロンティアとしての宇宙開発の新しい動きです。欧米は月や火星へ人類の活動領域を拡大していこうとしています。

もうひとつは宇宙の利用です。宇宙システムが私たちの日常生活や国や社会にとってなくてはならないものとしてより重要になってきています。カーナビに代表される測位システムや従来の通信や放送衛星に加えて環境や災害を宇宙から監視するシステムも注目されつつあります。宇宙開発を科学技術の一分野としてのみ捉えるのではなく国家の重要な政策実現の手段として捉えようという動きです。たとえば宇

宙システムを豊かで安全な社会実現の社会インフラとしてあるいは外交のツールとして活用して行こうという考えです。EU がこのような政策を打ち出し欧州宇宙機関に資金を投入し始めています。アメリカはいうに及ばず、中国、インドや韓国、ブラジルなども同様です。また、宇宙観光など宇宙を舞台に新たな企業活動が立ち上がりつつあります。

JAXA も「JAXA2025」と題して20年後の長期ビジョンを昨年4月に提案しました。豊かで安全な社会への貢献を当面の最優先課題とし、太陽系の探査や有人月面基地実現を目指して研究開発を積極的に進めていこうというビジョンです。

■終わりに

名古屋大学理学部でのわずか2年、されど2年、あの自立と自主を重んじ自由で若い雰囲気は私の思考の土壌となっています。あの雰囲気の中でこそ、宇宙の世界に飛び込んでいけたのだと思います。そして卒業後の恩師や同窓生あるいは内外の宇宙に携わる方々とのお付き合いの中で名古屋大学理学部や数学科の評判を聞いて今ではさまざまな場面で少し自慢げに「僕は名古屋の理学部数学科出身です」と自己紹介することになっています。(JAXA や宇宙開発について詳しくお知りになりたい方は www.jaxa.jp へ)

JAXA 事業の概要

ロケット・輸送システム

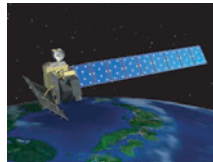
主力ロケット H-II A、科学衛星用 M-V 開発



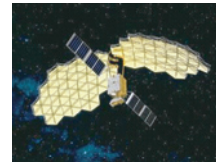
H-II A ロケット5号機の打上げ
(2003.3.28種子島宇宙センター)

地球観測・通信測位・人工衛星

人工衛星の開発と利用、地球環境と社会安全に貢献



陸域観測技術衛星 (ALOS) 「だいち」
25000分の1地図作成、災害監視、資源探査を担う
世界最大級の地球観測衛星



技術試験衛星 (ETS-VIII)
世界最大の展開アンテナで最先端の通信実験を行う
製紙技術衛星

国際宇宙ステーション有人宇宙活動



国際宇宙ステーション
地上約400キロメートルにある有人施設で、宇宙だけの特別な環境を利用して、天文学や生命科学、材料科学など、さまざまな研究や実験・観測が行われる

宇宙科学研究



赤外線天文衛星 (ASTRO-F)
太陽系探査、宇宙の進化を探る天文観測。遠い銀河や星々、新たに生まれつつある惑星系や太陽の研究など、赤外線や電波などを利用した天文研究

宇宙航空技術研究



SST ジェット実験機
コンコルドを上回る性能と信頼性を持つ次世代超音速輸送機「SST」、飛行船を成層圏で通信、環境監視等に使用するプロジェクトなどについての研究を行っている

■第44回全国七大学総合体育大会 —本学 総合4位—

第44回全国七大学総合体育大会（七大戦）が、7月上旬から9月下旬を中心に、九州大学を主管校として、同大学及び近隣運動施設等を利用して開催され、27種目で熱戦が繰り広げられました。

この体育大会は、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の7大学が毎年輪番制で当番校となって開催されている競技大会で、昭和37年に第1回大会が北海道大学主管で開催されて以来、約半世紀近くもの間行われている伝統ある大会です。（当初は、「国立七大学総合体育大会」として始まりましたが、法人化後、「全国七大学総合体育大会」に改称されました）

今大会は、主管校である九州大学が総合優勝を果たし、本学は、北海道大学、京都大学に次ぐ総合4位でした。一昨年の優勝、昨年の3位に比べると不本意な結果となりましたが、個々の競技では、グライダー競技で6連覇を、バドミントン男子は6戦全勝で優勝するなど、6種目の競技において優秀な成績を修めました。

なお、第45回大会は、大阪大学を主管校として開催される予定です。 （名大トピックス No.150より）

■名古屋大学公開講座を開催 —情報が世界をつくる!—



講義風景

平成17年度名古屋大学公開講座が、8月23日（火）から10月11日（火）までの期間、シンポジオンホールにおいて開催されました。

この公開講座は、昭和44年に名古屋市教育委員会との共催事業としてスタートし、昭和55年に本学の主催事業となってから、今回で36回目です。公開講座委員会において、テーマや講義内容、講師等について検討され、今年度は、「情報が世界をつくる!」を総合テーマに、全学から講師を選任し、全15回の講義が行われました。今年度の受講者は、133名で、50歳代、60歳代が全体の8割を占め、過去に受講したことのある方が8割を超えました。

講義では、本学の教員が、高度情報化社会で私たちがより幸せな生活を送るためにどうすればよいか等について、各研究分野の最新の研究成果を交えながらわかりやすく解説し、受講者は熱心に聴講していました。講義終了後には、受講者から講師に質問が寄せられるなど、このテーマに対する関心の高さを伺わせました。なお、10回以上出席した受講者には修了証書が手渡されました。

（名大トピックス No.149より）

全学同窓会支部、部局同窓会連絡先		
全学同窓会は、各支部・部局同窓会と連携協力して活動しています。		
全学同窓会関東支部	全学同窓会韓国支部	全学同窓会事務局 TEL 052-783-1920 nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp
全学同窓会関西支部	全学同窓会バングラデシュ支部	
名古屋大学遠州会	上海名古屋大学同窓会	
	全学同窓会タイ国支部	
文学部・文学研究科同窓会 「あおざり」文学部事務室気付 TEL 052-789-2226 bun-doso@lit.nagoya-u.ac.jp		医学部学友会 TEL 052-744-2512
教育学部同窓会事務局 森田美弥子 d42953a@nucc.cc.nagoya-u.ac.jp		工学部・工学研究科同窓会 庶務担当：岡野 孝 TEL 052-789-5485
法学部同窓会事務局 TEL 052-789-2312 dosokai@nomolog.nagoya-u.ac.jp		農学部同窓会「セコイア会」 dosokai@agr.nagoya-u.ac.jp
(社)キタン会事務局 TEL 052-783-8900 kitankai@crux.ocn.ne.jp		国際開発研究科同窓会事務局 alumni@gsid.nagoya-u.ac.jp
情報文化学部・人間情報学研究科同窓会 代表幹事：玉樹智文 TEL 052-789-3508		情報科学研究科同窓会 副会長：小畑 幸嗣 obata@takagi.nuie.nagoya-u.ac.jp
理学部・理学系研究科同窓会 理学同窓会事務局 TEL 052-789-5564 cl@dousou.sci.nagoya-u.ac.jp		

■名古屋大学上海事務所を開設



名古屋大学上海事務所が、11月11日（金）、本学初の全学的海外拠点として、上海市内に開設され、同日午前10時から、開所式が行われました。

上海事務所は、中国の高等教育・研究機関等との学術交流の推進や、中国における本学の広報、海外同窓会の中国における連絡窓口等を目的として開設されたもので、中国との今後の交流にさらに弾みがつくものと期待されています。

開所式には、本学から、平野総長、山下理事、山本理事、早川総長補佐等、中国側からは、謝繩武（Xie Sheng Wu）上海交通大学学長をはじめ、同大学、復旦大学、同済大学等の大学・学術研究機関関係者など、約30名が出席しました。

開所式では、上海事務所の看板除幕及び記念撮影が行われた後、平野総長から、「本学は中国の32の大学・機関と学術交流協定を結んで国際学術交流を推進しており、特に留学生交流においては、本学の留学生のうち中国からの留学生が約4割を占め、その中核を構成している。今後も中国との国際交流をより一層推進していきたい。」とあいさつがありました。

続いて、謝上海交通大学学長から、「これまでの名古屋大学と上海交通大学との学術交流を高く評価し、上海事務所が上海交通大学に隣接する建物内に開設されたことを歓迎するとともに、今後も名古屋大学が上海交通大学を含めた中国国内の各機関と活発な学術交流活動を展開していくことを期待したい。」とお祝いのことばがありました。

その後、上海事務所長である山本理事の発声で乾杯が行われ、終始和やかな雰囲気の中で歓談が行われました。

（名大トピックス No.151より）

淮海西路55号 甲通信息広場
27階D座 200030 上海
電話・FAX +86-21-6280-6185
E-mail office@nushanghai.net.cn
<http://www.nushanghai.provost.nagoya-u.ac.jp/>
職員名 姚 綺

■東京フォーラム2006



左 開会のあいさつをする平野総長
中 講演する郷お茶の水女子大学長
右 講演する丹羽全学同窓会副会長・関東支部長

「名古屋大学東京フォーラム2006」が平成18年1月24日（火）、東京の社団法人学士会学士会館で開催されました。

本フォーラムはわが国の学術研究の課題を広い視点から捉えるとともに、産学連携の新たな契機とするために名古屋大学が名古屋大学全学同窓会と共催で行うもので、今年は3回目となります。当日の参加者は300名を超え、名古屋大学の研究教育に対する関心と期待の高さを伺わせました。

今回のテーマは「バイオ、ライフサイエンスが拓く未来」で、技術シーズ展示会では、名古屋大学における最先端の研究、技術シーズ等28ブースの展示があり、各ブースの担当者が、来場者に熱心に説明していました。

同時に、「バイオ、ライフサイエンス」をテーマにした講演会が行われました。まず、同分野の第一人者であるお茶の水女子大学長郷通子氏（名古屋大学名誉教授）が「生命情報とネットワークの世界—産学連携に向けて—」と題して、続いて、産業界より伊藤忠商事株式会社取締役会長丹羽宇一郎氏（名古屋大学全学同窓会副会長）が「ライフサイエンスとビジネスイノベーション」と題して、それぞれ講演されました。

講演会終了後、産学連携交流会（全学同窓会関東支部懇親会）が開催され、なごやかな雰囲気の中で、旧友との再会のひとときを楽しむ同窓生や、産学連携等について情報交換を行う企業関係者の姿が見られました。

事務局からのお知らせ From the NUAL Office

●支援会費のお願い Call for contributions

名古屋大学全学同窓会の活動は、皆様からの支援会費、寄附金に支えられております。支援会費は年度ごとのお支払いとなります。皆様のご協力をお願いします。

○支援会費 Supporting Fee

支援会員 Supporting member : 一口 5,000円

支援法人会員 Supporting institution : 一口 50,000円

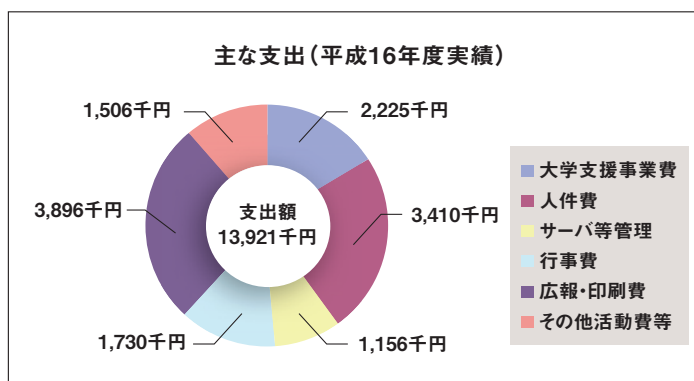
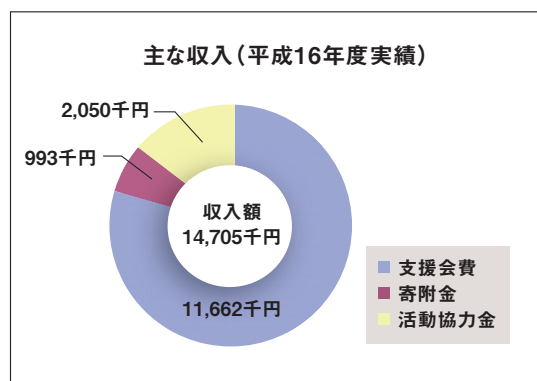
○支払い方法

郵便振替 Post Office Account 口座番号：00860-8-113043

自動引落 利用ご希望の方に、預金口座振替依頼書をお送りします。

※関係書類をご入用の場合は、同窓会事務局にご連絡ください。

支援会費等は、全学同窓会の設立理念に合致する活動に使わせていただきました。



●入会およびインターネット会員登録について NUAL membership registration

名古屋大学全学同窓会への入会および同窓会名簿への登録についてご案内します。

You can register your membership and renew your data through the following web-page.

○新卒業生・修了生

会則に従い、自動的に名古屋大学全学同窓会の会員としてお名前、生年月日、卒業年が名簿に登録されます。同窓会ホームページには、本人だけがアクセスできる現住所、電話、E-mail、勤務先等々の欄があり、ご自身での記載・変更をお願いします。

○未登録同窓生・元職員

在学・在職年度や部局・身分によっては現時点で名簿に登録されていない場合があります。ホームページを通して新規登録をお願いいたします。

名簿は社会貢献人材バンクとして全学同窓会及び名古屋大学の活動に利用しますが、個人情報本人の承諾なしに公表されることはありません。最新の会員情報が得られますよう、皆様のご協力をお願いいたします。

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集後記

前号の編集後記でもふれましたが、今号でもバングラデシュ、上海、タイと海外支部の相次ぐ設立をご報告することができました。名古屋大学も同窓会もまさにグローバル化の途上にあるということでしょうね。ところで、前号の「嚶鳴寮」の次の特集として「食堂」を予告したのですが、準備の都合で来号以降に回すことになりました。というわけで、食堂に関する思い出や情報(写真など)を引き続き募集中ですので、事務局までご一報いただければ幸いです。(全学同窓会広報委員会)

NUAL Newsletter No.6 平成 18 (2006) 年 3 月発行

Nagoya University Alumni Association

NUAL 名古屋大学全学同窓会

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 TEL/FAX 052-783-1920

E-mail nual-jimu@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nual.nagoya-u.ac.jp/>

編集：名古屋大学全学同窓会広報委員会